



## ● 今月の注目記事 ●

P1～P3 日本・台湾のつながれた和で、先人の知恵を台湾まちづくりへ

P4～P5 街人めぐり ミル製作室 中川啓子さん

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

● 1月15日(日) 御菅地区合同慰霊法要

10:30～(受付10:00～) 御蔵北公園

● 1月17日(火) ろうそく法要

5:00～午前の部 17:00～午後の部

● 2月5日(日) 第3回御蔵百聞くらぶ

語り手・岩田健三郎さん(版画家)

14:00～(受付13:30～) 御蔵通5・6・7丁目自治会館

## 日本・台湾の“つながれた和”で、先人の知恵を台湾まちづくりへ

…御蔵地区古民家移築集会所のその後

民家が繋ぐ御蔵地区の集会所  
御蔵地区（以下御蔵）での住民と学生との結いによる集会所建設作業から、2年が経過した。御蔵通5・6・7丁目自治会館は住民はもちろんのこと、修学旅行の学生や見学者など多くの人に利用されている。120年以上の歴史を持つ空間が再現された御蔵では、新たな息吹を感じさせてくれている。（詳細は2003年月刊まち・コミ又はHPを参照）  
御蔵のミニディサービスでは、高齢者が集い憩い、囲炉裏を囲んでの談笑の時間を作っている。3ヶ月に1回、日曜日には、唱歌の会や百聞くらぶがあり、さらに賑わう。建設工事時、多くの人に関わり、それぞれ想いを持ってできた再生古民家が持つ空間の魅力が織りなす雰囲気がある。ハードとソフトが共に育まれているような場所がここ御蔵に実現されつつある。

台湾まちづくり人が日本古民家を魅了する！！  
まち・コミ関係者や御蔵住民は、台湾集集大地震（1999

年9月21日）以降、台湾被災地支援と共に、台湾でまちづくりに取り組む人とも、共に復興まちづくりを学び、復興に向けて交流を深めている。2005年までに、関係者や住民300名が台湾を訪れている。

2004年6月16日、交流のある台湾彰化縣から県知事始め多くのまちづくり人が御蔵を訪れた。古民家集会所の温かい空間で、交流の時間はゆっくりと流れ、人々は心ふるわせ気持



ち豊かになった。台湾のまちづくり人は、母国台湾にも心とますこの古民家の空間を、移築して欲しいと望みが芽生える。言葉を交わし豊潤な中で気持ちは大きく膨れていく。緑豊かな台湾の大地に、日本で建てられた民家が青空を背にしている風景を臉の裏に思い描いた。

#### 台湾へ移築する民家

御蔵の集会所を建設している2001年夏、福井県大飯郡岡田村の民家を所有している人から「私の民家も有効活用できないか」と相談があった。福井県大飯郡岡田村は、故水上勉氏（作家）の生地である。近くには著者の蔵書を地域に開放した若州一滴文庫もある。

2001年秋、民家の調査に入ると、棟札には、「大工棟梁 水上覚治」と書いてある。棟梁水上覚治は水上勉氏の父である。水上勉氏は、著書の中に父は貧乏大工と書いている。19歳の時に建てたさや堂を見るに技術はすばらしい。移築する民家は、21歳大正5年の建設である。冬は数メートルも雪が積もる為に大黒柱、小黒柱に屋根を支える柱

は太くしっかりとし、梁は幾重にも重なり重力に屈しない力強さがある。棟梁の技を競うのかテッポウと言われる曲がった梁の加工にはほれほれとしてしまう。その姿に台湾のまちづくり人も心惹かれたのであろう。（詳細は2004年8月号参照）



#### 解体工事へ決意

古民家移築で学んだことがある。「旬」である。木や竹の切り旬、藁、土とそれぞれ時期をみて仕事をしていた。季節に身を任せて生活していた。

旬は多くのものに存在する。人には希望があり、要望があり移り気となる。ものにも命があり朽ちていく。丁寧に使い、繕うことで朽ちる時間を長くなる。

民家は空き家になって数年経って、雨漏りもしていた。朽ちるのは時間の問題である。事業計画は何も決まっていなかったが、古民家を移築することで造られる空間と時間には絶対的な自信を持っていた。決断する要素は揃っていた。旬を逃さず、時を見る時間はなかった。



#### 解体開始！

民家の解体は、2004年8月15日から1ヶ月間で行った。2ヶ月ほど前から近隣各大学や専門学校の先生方の協力により、授業等の時間を頂いて、学生へプロジェクトの説明と参加呼びかけをした。その結果解体工事には学生55人が参加し、さらに台湾から建築学生4人に映画監督1人、集会所で結いの大切さを感じた御蔵の住民、先生方や大工棟梁を含め、有に100人を越える有志が集った。岡田村の空き家を借りて泊まり込み、一滴文庫を含めた地元の方にもお世話になり、4週間かけて解体工事を行った。最後には福井豪雨のチャリティーを兼ねた交流コンサートを一滴文庫と共催し、移築成功と交流継続を誓った。解体した木材は、乾燥と大工さんが施工をするため、兵庫県篠山市氷上町の倉庫へ移した。

#### 台湾との交渉

カウンターパートナーである邱明民さんと打ち合わせのため、日本側関係メンバーでこれまでに5回訪台し、移築に向けて具体的に詰



めている。大きな課題は、土地探しと台湾の賛同者探しである。そのほか、建築基準法の違い、土地の選定、材料の有無、伝統技術の差、建築における要件のクリアに向けて話し合いを進めた。文化建設委員会の陳其南大臣によると、台湾には日式、日本統治時代の建物が多く残っていて、今も大切に活用されているようだ。

現在の使用方法については、NPOセンター、古建築修復センター、台日文化交流センター（文庫等）が予定されている。交渉の難航していた建設予定地は、淡水に決定した。

台湾の大学を回り、学生ボランティアの参加も同時並行で行っている。

### 日本・台湾の応援団結成

日本側でも技術面・資金面の課題をカバーするため、学識経験者や市民の多くの応援団の結成準備を進めている。（現在の応援団参照）551 蓬萊社長の羅辰雄氏は忙しい中、親切に台日交流のことを聞いてくださり、心強い支えになってくれている。水上勉氏の長女 蔭子氏も、蔵書等の応援をしてくれている。現在も応援団になっていたただけの方を募集中。



台湾の邱さんと  
民家の持ち主木村さん一家

### 台湾へ向けて

11月19日から20日にコンテナ積みを行い、11月30日に神戸港を出航し、2005年12月3日に台湾へ運ばれた。

日本側の伝えたいこと移築にかける想い（台湾に民家が移築されて）

台湾でも御蔵で行った参加を促し、共に造りたい。日本でも解体に参加した学生の中には台湾でもと願っている人もいる。専門分化は時間を買っている。向き不向きはあるが得意な人に任せても、出来ることは率先してやる方が良い。知ることでも得ることも多くあり、より深い理解に繋がる。一方向だけでなく多方面から見る事が出来るようになる。宛い扶持や選択肢を選ぶだけでは創造的なものは生まれてこない。台湾への民家移築はそんな決められた選択肢にないものの見方を教えてくれる場であると思っている。

台湾の学生も情報として得ているだけでなく、日本に伝わる伝統的な技術に触れることで違った価値観を得るだろうし、日本の学生と交流することで相互理解に繋がる。共に考え、手を動かすことでお互いの良い部分を知り吸収することで新たな歴史が刻まれると望んでいる。

台湾への古民家移築を日本・台湾多くまちづくり人と協力することで成功させ、復興まちづくりから生まれた人の力・知恵を大切にす精神を共に養う、記憶的な建築になると願っている。

### 最後に

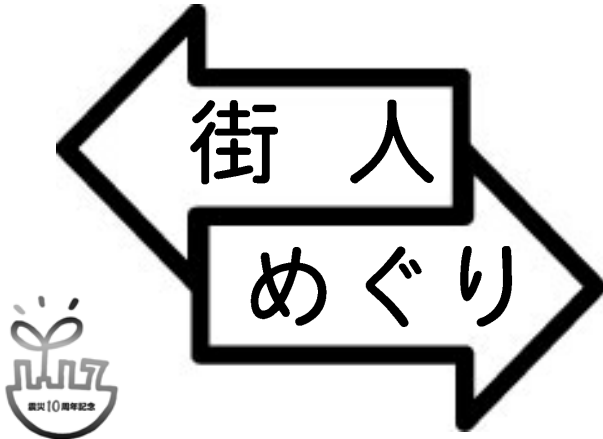
まち・コミ顧問の田中さんが好きな言葉からは、古民家の人を大切にす心が感じられる。

人に接する時は、春の様な暖かい心で  
仕事に取り組む時は、夏の様な燃える心で  
物事を考える時は、秋の様な澄んだ心で  
己を責める時は、冬の様な厳しい心で

### コラム 日式建物の今

台湾総督府を始め多くの遺産が残っている。台湾の建築事情は木造で建設される建物は限りなく少なく、鉄筋コンクリートで建てられるタウンハウスが一般的である。その為、台湾には日本で言う大工という職人は数が少なく木造家屋を修理できる人は少ないと聞いている。その為、日式の木造家屋は木造の補強と言うよりは金物を多用したものとなっている。台湾に民家移築することで台湾の職人にも参加をしてもらい、大工技術を少しでも見て手を使うことで体験として知って貰うことができる。そうすることで、台湾にある木造建造物の補修などのメンテナンスが台湾の職人でできることになるだろう。

## 経験の共有から課題の共感へ



# いろいろな角度から まちに関わる

ミル制作室

中川啓子さん

神戸の中でも特に「住みたい町」に選ばれる灘区。ミル制作室の中川啓子さんは、灘区を中心にフリープランナーとしてまちづくりの活動を続けている。中川さんの活動のことや、町に対する思いを聞いた。

まちづくりに関わるきっかけは？

学生時代は都市計画専攻のゼミに入っていました。当時はまちづくりや地域活動という言葉が今ほど知られていなかったので、まちづくりに直接関係する授業は、ほとんどなかったのですが、ゼミの先生が比較的まちづくりに興味を持っていて、いろいろ教えてもらいました。卒論のテーマは、住宅地の共有スペースの使い方や管理の研究でした。「まちづくり」がテーマではなかったんです。けれども、当時HAR基金(阪神・淡路ルネッサンス・ファンド)の報告会に先生に連れて行ってもらったことがあって、その内容に興味を持ち、コンサルの方などに会えたのがきっかけです。

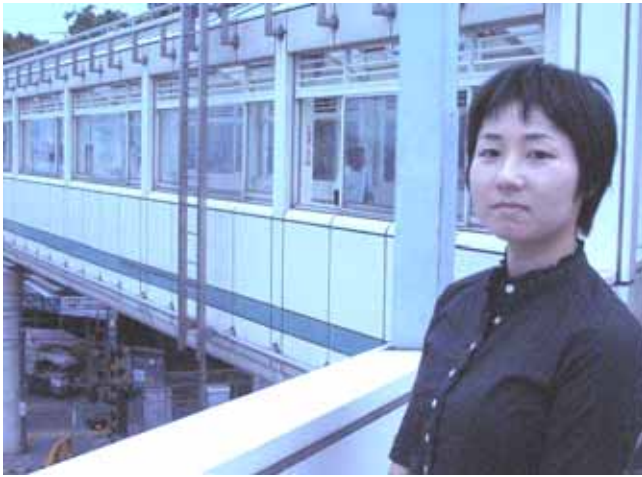
ゼミの先生が、面識のあったGU計画研究所の後藤所長に会わせてくれて、4回生の夏からバイトを開始。そのまま就職して、約6年間勤めました。ゼミの中でも、まちづくりコンサルタンのようなところに就職したのは私ぐらいです。そう考えると私は学生時代から、他の学生よりはまちに興味を持っていたんでしょうね。

今まで関わってきた町は？

仕事に就いて最初に担当したのは、灘区の新在家南地域の空き地調査。その後東神戸～阪神間で、多いときは一時に7～8ヶ所の地元に行っていました。

6年勤めて辞めたわけですが、独立というわけではないんです。最初から、一つの事務所は3年～5年で区切りをつけるつもりでしたし、フリーでまちづくりに関わることは考えていませんでした。まちづくりコンサルというのが、自分の本当に進みたいと思っている道なのか、自分にやっていけるのか、そんなことを考えていました。職業安定所で仕事探しもしました。実は、ずっと前から小説を書きたいという思いがあるんです。現在は、阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク発行の「きんもくせい」で短編を連載しています。今年度末で36話となり、本にまとめたいと考えています。小説を本業とするのは難しいことなので、当時はどこかに就職して、趣味で小説を書くのもいいかなとも考えました。

けど結局、大手コンサルに勤めている知人から短期アルバイトの話があって3ヶ月勤め、平成15年からは灘区の地域活動支援コーディネーター(以下、コーディネーター)になりました。屋号をミル制作室とつけたのは、平成16年春ごろから。屋号があったほうが仕事がしやすいのでつけました。「ミル(海松)」は私が好きな、色



中川啓子さん



2004年9月25日 灘駅 まる洗いプロジェクト

の名前で、あえて私の仕事がイメージできない屋号にしました。

#### 地域活動支援コーディネーターの仕事

地元と行政をつなぎ、プランニングしていく役割です。私は、“美しいまちづくり”をテーマに3年間やってきました。テーマにあった企画を行政に提案し、実行のために計画をたて、サポートしていきます。

「灘・まる洗いプロジェクト」は、灘にある公共施設を毎回一カ所、ピカピカに磨き上げるもの。神戸大学の学生を中心とした、実行委員会で企画運営し、子どもから大人まで、1回に約50から60人の参加者があります。開催場所の地縁団体にも協力を呼びかけます。また、実行委員会メンバーのネットワークをめいっぱい活用し、参加者を募っています。まる洗いが終了すると、協力企業からのおみやげや、地元の店舗で使える、まる洗いオリジナルの割引クーポンをプレゼントしたり、古い町の写真を展示するなど、施設をきれいにした達成感だけでなく、楽しみも用意しています。また実施後には「まる洗い通信」を発行し、関係者への報告をしています。活動資金については、実行委員会メンバーが区や県の助成金に応募したり、協力団体に掃除道具を買ってもらったりして、運営しています。

運営委員会メンバーの9割が大学生なので、卒業などでメンバーが減ることが懸念されますが、

今は後輩などが引き継いでなんとかやっています。でもメンバーが減ると一人一人の作業負担が大きくなります。企画運営メンバーを増やすために、関わり方のいろんな形をつくり、気軽に参加してもらえるようにしたいと思っています。

#### 今後は？

地域活動支援コーディネーターのほか、神戸周辺でワークショップの企画運営などを行うワークショップ研究会や、まちづくりや建築に関わる若手メンバーで構成されている若手プランナーズネットワークにも所属しています。ほか、宝塚の山本地区の地域活性化のための提案をしたり、西宮の御前浜の使い方や整備、これからについて考えるワークショップのお手伝い、そして、まち歩き系のイベントの企画等もしています。

個人として、グループの一員として、まちに関わるいろんな取り組みに参加しています。自分にとって勉強にもなるし、ネットワークも広がります。

「きんもくせい」に書いている小説も、まちの中にあるいろんな物語の中の一つで、何気ない風景や場所を切り取った物語です。今まで9年ほどまちづくりに関わってきました、おもしろいと思います。将来する職種は、実はまだ未確定ですが、「まち」には関わり続けたいと思います。

まる洗いプロジェクトホームページ  
[http://www.geocities.jp/maru\\_arai/](http://www.geocities.jp/maru_arai/)

## みくらエッセイ

## 「一人の学生から見た御蔵」

三村 晃庸

私は大学の先生の紹介でまち・コミに研修に行く話があり、いい経験や勉強になると思ったし、大学でまちづくりや住宅、自然や街の環境の事を専攻して勉強していましたが、何か実践的な活動、勉強がしたいと思って研修に行くことを決めました。一週間という限られた期間でしたが、まち・コミで私が思った事を少し書かせてもらいます。

私は御蔵について考えた事が三つあります。1つめは凄まじい街の再生力です。その街の住宅街には数多くの公園がみられました。なぜそんなに公園が多いのかと思うと、その公園は街を美しく見せるためだけでなく、子供の遊び場というのはもちろん災害の避難場所としても使われるために公園がたくさん作られているのです。それに道路は震災前より幅を広くしているそうです。建物の火災が隣の建物に飛び火しないためです。十年たったとはいえ、そこにいた人たちの生きるという思いがあったからこそできた再生だと思えます。

2つめは「人と人が支えあい共に生きるという事の大切さ」。みくらの人はこの事が生活の一つの考え方として体に染みついている、これは言葉で知るのでなく御蔵の人と実際に接したからこそわかるものだと思います。そしてそこにこそ、本当の人の姿があるものだと思います。

3つめは地域のみなさんが本当にしっかりと、自分たちのまちの事を考えていることです。というのは私の実家ではあまり地域活動が盛んではありません。そういう所を見てきたから、自分が大人になったらもっと地域活動が活発になるようにしていきたいと思っていたので、地域活動の重要性をもう一度考えさらに確信しました。みくらでの研修はここでは書ききれないようなたくさんの事を学びました。毎日いろんな人たちに会い、その人たちと共に作業し休憩をしたりする、それこそ学校では学べない事を経験しました。それと同時に、外部からの人がもっと御蔵のまちづくりがどういうものか参考にしてもらいたいと思いました。

今はどこで何が起こるかわからない時代、いつ自分の身に危機が襲い掛かってくるかわからない。私も改めてそのこと考え直そうと思いました。



## ○プロフィール○

みむら てるのぶ 昭和59年生まれ。現在は神戸山手大学3年生。  
趣味 映画鑑賞 音楽鑑賞 スポーツ





## まち・コミおすすめBOOK

### 「人と縁をはぐくむ まち育て

まちづくりをアートする」

編著：延藤安弘

出版社：萌文社 定価：2100円（本体＋税）

「住民、行政、NPOなどによる「まち育て」は各主体の積極的なかわりから、地域資源を発見し、それに活気を与え、資源の有効活用、創造的継承につながり、コミュニティの既存の力を増殖させる方法」で、「地域の目に見える資源や目に見えない文化を大切に。そのための子どもや大人の気づきや学びや行動を目指す。」もの。（本文より 抜粋）

延藤先生はまち育てのひとつの方法として、2台のスライド投影機を使った幻燈会「ゲントーク」を開く。また、コメンテーター等で各種集まりに出席した際には、韻をふんだキーワードでまとめ、笑いを誘う。延藤先生の周りには、いつも笑顔があふれている。

本書は、2003年3月に延藤先生が千葉大学を自主退官するにあたって、「延藤安弘とその仲間たちの<まち育て>」という集いが行われ、その内容を元に編集されたもの。延藤先生が今まで関わってきたまちの人や関係者が、それぞれの立場から発表、発言した。その内容をもとにまとめたもの。まち育ての今までの取り組みがわかる。延藤流のまち育て、人育てのノウハウがちりばめられた一冊。

「混迷している現代社会をこえていくために、人と人のご縁結びと出会いが生む感動をアートの表現を通して、住民が主人公となる参画と協働の創造的まち育て・まちづくりの方法を語らんとしています（延藤先生からの手紙より）



## 大地のつぶやき

### 疎開の記憶と学童時代（Ⅰ）

戦後六十年、日露講和条約から百年、八月に入って各新聞は特集記事や連載記事が出ている。語り継ぐことの大事さを読んで思った。私自身も戦争末期に父方の郷里近くの福岡県糸島郡前原町（現前原市）、前原小学校裏手にあった伯父の家に疎開していた。当時伯父一家は上海にいて空き家だった。広い庭を野菜畑にし、一部掘り込んで防空壕にして不要不急の物を納めていた。夜空を赤く染め照り返る博多の空襲に恐怖を感じた。一時寄宿していた予科練生にアコデオンの上手な人がいて、せがんで良くひいて貰ったことなど戦争中の思い出として微かに残っている。

戦後は叔父一家が上海から引き揚げて大家族になり、我が家は福岡市内の母方の実家に移った。元海軍機関大佐の祖父は昭和二十年一月に病死しており、祖母一人暮らしのなかに母と子供三人がころがり込んだから大変だ。郡部から都市に移ると一度に食糧事情がわるくなった。米粒が数える程の大豆粥や、芋粥が常食となり、やはり庭での俄づくりの貧弱な芋や南京・トウモロコシの代用食が主食。近所の悪童に連れられて西鉄大牟田線平尾〜高宮間の勾配あるレールの上に耳を当てコトンコトンと音を聞いたら五厘銭や十銭銅貨を置いて飛びのき物陰に隠れ通過を待ち、表裏つるつるになった貨幣を見せ合って遊んだ。昭和二十一年神戸に戻る混雑した博多駅で少し年長の戦災孤児たちに囲まれ、にぎりめしを取られそうになった所をずっと年長の従兄弟に助けられ、窓から列車に放り込まれた。

昭和二十四、五年の間何度か神戸・博多間を往復したが不思議と広島印象はない。多分夜中の通過だったのだろう。兄達に八幡製鉄所の煙突からモクモクと上がる煙をみて、「これが新しい日本、復興日本の姿だ、よく見ておけ」と教えられた。神戸の家は本山町野寄で川崎造船、川崎さんの三階建ての浄化槽を持つ洋館で今の灘高テニスコートの辺りだと思ふ。そこに五所帯同居していた。

株式会社兵庫商会 田中保三

# まち・コミ活動報告

## 6・7月

- |                   |                   |                       |
|-------------------|-------------------|-----------------------|
| 6/5 自治会館唱歌の会      | 7/4 神大塩崎研へ復興誌相談   |                       |
| 6/8 早稲田高校震災学習受入   | 7/6 羽村第三中学修学旅行受入  |                       |
| 6/9 加古川山手中震災学習受入  | 7/8 富士常葉大学受入      | 7/20 修学旅行お疲れさま会       |
| 6/10 曹洞宗ご詠歌梅花流受入  | 7/8 東大阪福田さんヒアリング  | 7/21 こらぼネット防災学習受入     |
| 6/12 まち協・自治会総会    | 7/9 富士常葉大学まち歩き    | 7/23 ~ 31 大学生研修受入     |
| 6/27 県互助会竹内氏講演打合せ | 7/9 鳥取湖南中学修学旅行受入  | 7/24 東大阪河内音頭参加・片付け手伝い |
| 6/28 復興誌ヒアリング     | 7/10 百聞くらぶ(鉄砲光丸氏) | 7/26 河内音頭練習           |
| 7/2 まち・コミ感謝祭      | 7/12 塩崎研プレゼン      | 7/27 兵庫県互助会講演会(但馬)    |
| 7/3 まち・コミ運営委員会    | 7/15 東大阪まちづくり会    |                       |

## ご支援、ありがとうございます。

6月1日~7月31日

### 賛助会員(新規・継続)

- 6月 北島繁昭(埼玉県) 吉田昌(大阪府) 木村史暁(神奈川県) 長沢恵美子(東京都) 越澤明(北海道)  
 佐原滋元(東京都) 吉川忠寛(東京都) 相川康子(神戸市) 大牟田智佐子(大阪府) 菱倉哲(東京都)  
 7月 秋原孝三(兵庫県) 森敏昭(神戸市) 大島英司(大阪府) 高宮城幸雄(神戸市)

### 協力

- 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

## 新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し金銭面で支援していただいています。まち・コミを運営していくにあたって、最低限必要な費用を助成金だけでまかなうには、限界があります。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきますので、現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。

### 賛助会員になると...

- 本誌「月刊まち・コミ」が送付されます。
- まちづくりについての自由闊達な情報交換・意見交換の場(メーリングリストなど)に参加できます。
- まち・コミ関連の催しへの参加料が割引されます。
- まち・コミ関連の出版物の購入費が割引されます。
- まちづくりなどに関する様々な相談に、まち・コミスタッフが応じます。

よろしくおねがいたします。

編集後記 今年の夏の修学旅行震災学習受け入れは無事終了。15校1500人ほどの生徒さんたちが、御蔵の語り部の話に耳を傾けました。(戸)

### 年会費

- 個人・法人 年間5000円
- 学生 年間3000円

### 郵便振替口座番号

00950-3-42788

### 口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2005年7月1日発行  
 編集/発行 まち・コミュニケーション  
 定価 100円

御蔵事務所 〒653-0014  
 神戸市長田区御蔵通5-92-2 みくら5 101  
 TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052  
 東京都新宿区戸山1-24-1  
 早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580  
 神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1  
 専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com  
 URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/